



馬の学校

馬の学校通信

2019.12 vol.76

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市天白区植田本町 3-1105-302 TEL/FAX : 052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : <http://www.horseschool.org>



小須田牧場のスタッフに



大学を卒業後、山梨県にある小須田牧場のスタッフとして働き始めました。カナダで知った治療的乗馬について学びたいという気持ちを持ちつつも、その前に馬についてきちんと学びたいという思いがありました。それまで何回もファームステイは経験していたものの、やはりスタッフとなると、やることも責任も違いました。日々の馬の管理だけでなく、レッスンやファームステイに来る人たちへ指導、そして交代でみんなの食事作り、その中で多くのことを学びました。馬とのかかわりでは、担当となった馬に「カミー」という馬がいました。それまで障害飛越の競技にも出ていたけれど、高齢になって足も痛めたために小須田牧場にやってきました。とても穏やかな性格のカミーは、何かに驚くということもほとんどなく、年齢のせいもあってか突っ走ることもなく、私にとってとても安心できる馬でした。「カミーとなら大丈夫」という安心感から、休みの日の朝など、よくカミーと一緒に外乗に行きました。のんびりと歩きながら、私はよくカミーにいろいろと話しかけていました。楽しかったこと、悩んでいること、これからのこと、カミーは黙って聞いてくれる（当たり前？でも大切なことです）そのうちに自分で答えが見つかったりします。そう、私にとってはカウンセラーのような存在でした。調教途中の馬などは「共に成長していく」という感じですが、カミーのような経験豊富な馬からは、「先輩に教えてもらう」ようでした。1年ほどのつきあいの中で、本当に多くのことを教えてもらいました。

スタッフになってもうすぐ1年になろうという頃、私は体調を崩しました。そのことは、私にとって「馬の何がやりたいのか？」を再度考え直す機会となりました。馬が人に与える影響に関心を持ち、やはり治療的乗馬についてもっと知りたい、海外で学びたいという思いが強くなり、スタッフを辞めることにしました。アルバイトをして渡航資金を貯めつつ、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの施設に手紙を送り（当時はまだインターネットはなかったのです！）、いろいろな情報を集めることになりました。



おすすめの本

『支えあいからつながる心』ナカニシヤ出版 太田仁監修、阿部晋吾編

対人関係の心理学に関する本ですが、梅花女子大学で非常勤講師をしている関係で声をかけていただき、「第15章 動物と分かち合う幸せ2：馬の学校で育む心の絆」を担当しました。馬とのかかわりから学ぶことや、馬を介した支えあいについて、事例を通して紹介しています。馬の学校での活動が、馬を通して支えあい、つながれる場となることを、これからも目指していきたいと思います。



馬のおもちゃ

『木のオーナメント』

この時期は、クリスマスグッズの紹介です。ドイツのザクセン州にあるザイフェンという町は、「おもちゃの村」とも呼ばれています。おもちゃ作りの工房がたくさんあると聞き、ドイツ滞在時にぜひ行ってみたいのですが、冬は雪深く、電車やバスでは大変と聞いて断念。その代わりに、あちこちのクリスマスマーケットでオーナメントを買い集めました。我が家のクリスマスツリーはシンプルなものにしたので、素朴なオーナメントが大活躍しています。





活動報告

馬とのふれあいプログラム in 愛知県森林公園

やる気十分の5名の参加で、にぎやかに行いました。



馬への理解を深める講習会 in 六甲山牧場

スペシャルバージョンで、牧羊犬についての講義もあり、新たな発見がたくさんあった講習会となりました。



馬とのふれあいプログラム in 六甲山牧場

経験者の子どもたち3名の参加で、やってみたいことにじっくり取り組みました。



馬とのふれあいプログラム in 愛知牧場

子どもたち5名の参加で、ポニーと成馬で行いました。



子どもゆめ基金 助成活動

10月5日、岐阜県郡上市のカズホーストレーニングにて、子どもゆめ基金助成活動「馬と遊ぼう」を実施しました。愛知県長久手市にある児童養護施設「キナーホルト」の子どもたちと、馬とのふれあいを楽しみました。今年で4回目となるプログラム、参加者の大半は何度も参加してくれている子どもたちです。回数を重ねるごとに、子どもたちは積極的になり、初めて参加する子どもたちをサポートしてくれ、とても頼もしいです。また待ち時間があると、馬小屋にいる馬たちを見に行き、名前を覚えている馬に声をかけたり、その様子を観察したりと、とても和やかな時間が流れていました。年に1回のプログラムでも、共に時間を過ごし、子どもたちの成長を感じられることは、とても嬉しいことです。



第1回「馬のいる領域」研究集会

大会テーマ：馬のいる領域 創ろう笑顔のネットワーク

<主催> ゆるやかネットワーク

<会期> 2020年2月15日(土)・16日(日)

<場所> 国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3-1

(小田急線「参宮橋」駅下車徒歩約7分)

<参加費>

2日間 一般7,000円/学生3,000円/開催団体会員5,000円

15,16日のうちどちらか1日

一般4,000円/学生2,000円/開催団体会員3,000円

<情報交換会参加費> 4,000円



編集後記

毎年のことですが、夏が過ぎるとあっという間に12月になってしまいます。

今年もプログラム盛りだくさんの1年でした。6つの乗馬施設のご協力のもと、プログラムを22回行い、のべ105名の方にご参加いただきました。娘の産休後の再開から5年、ようやくリピーターも増えてきて、子どもたちの成長を感じながらプログラムができることをとても嬉しく思っています。来年はいよいよ20周年。7月18(土)19日(日)にばかぼこひろば(大阪府茨木市)にてイベントを計画中ですので、お楽しみに!!

娘は、学芸会での「おばけじぞう」で地蔵役をしてとても楽しかったようです。外遊びや歩くことが激減していることが気がかりで、週1回の朝のお散歩も始めました。30分ほどの時間ですが、朝の空気を吸い、おしゃべりしながら歩く時間はいいなあと感じます。寒さに負けずに続けて行きたいと思っています。(峯崎友香理)